

**7 - 25 2007年4月15日三重県中部で発生した地震に伴う地殻変動連続観測結果**  
**Crustal Deformations associated with the earthquake**  
**occurred at the central part of Mie prefecture on March 25, 2007**

京都大学防災研究所地震予知研究センター  
Research Center for Earthquake Prediction,  
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

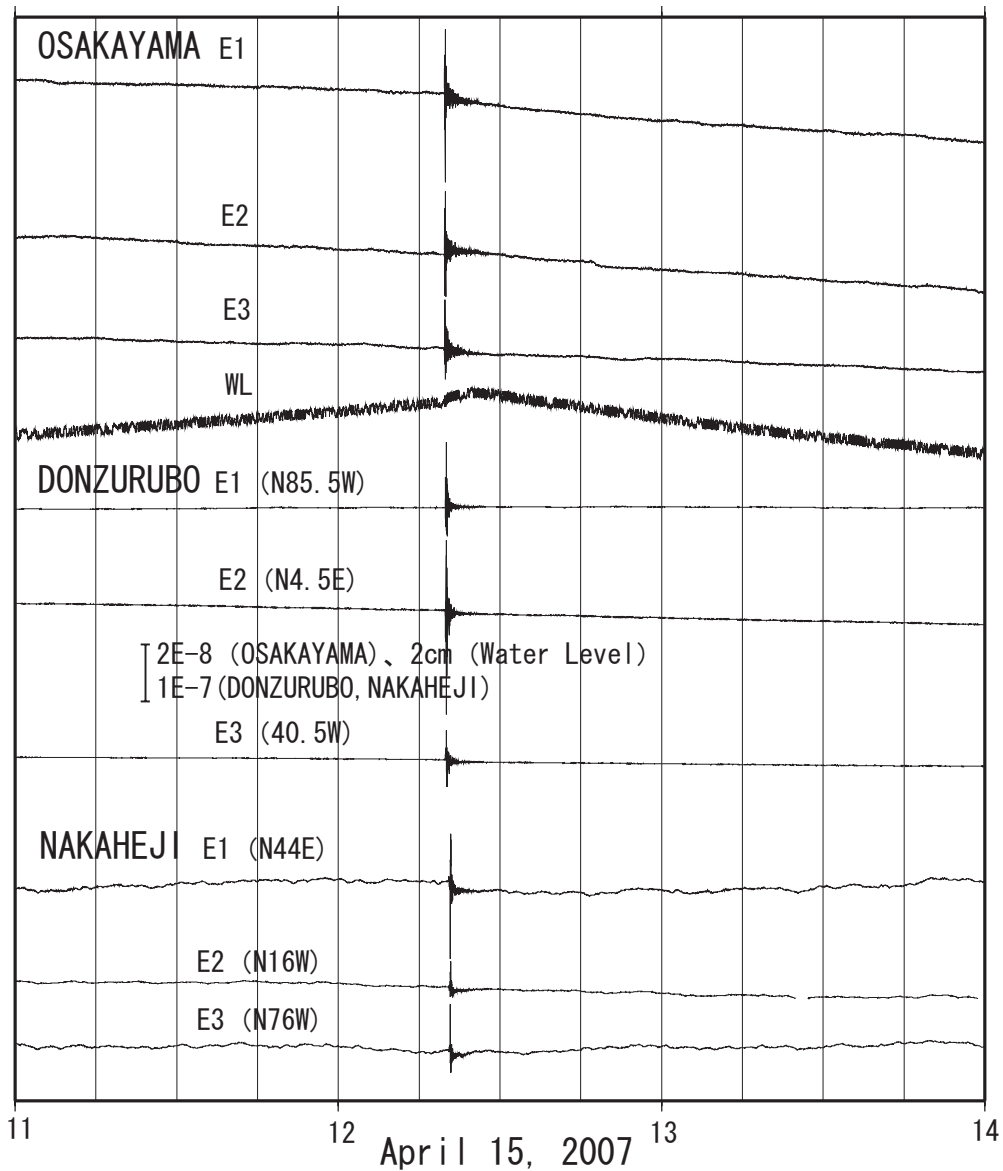
4月15日三重県中部地震時の、京都大学のいくつかの地殻変動連続観測点での歪記録を示す。いずれも $1.0E-9$ 台のコサイスミックステップを記録している。京都大学防災研究所では、南海地震に対応した研究の一環として紀伊半島の田辺市中辺路に簡易短スパン歪計（スパン約75cm）<sup>1,2)</sup>を設置した。この計器の設置後すぐに発生した地震であったが、明瞭な歪地震波を記録した。なお、4段目は逢坂山坑道内で観測している地下水位である。

（尾上謙介・森井 互）

参 考 文 献

- 1) 松尾成光・尾上謙介・重富國宏・森井 互・浅田照行・細 善信・高橋輝雄・石井 紘：メカニカル拡大システムを用いた短スパンひずみ計の開発，京都大学防災研究所年報 48B (2005), pp.231-234
- 2) 尾上謙介・松尾成光・細 善信・高橋輝雄・石井 紘：簡易3成分ひずみ計，京都大学防災研究所年報 49B (2006), pp.263-267.

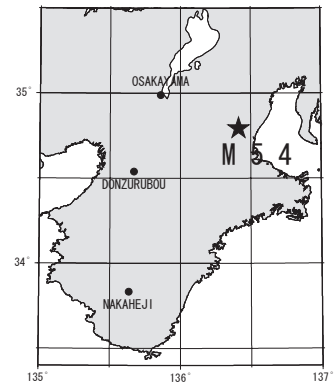
## 2007年4月15日三重県中部地震時の地殻変動連続観測結果



第1図 観測点位置図

Fig.1 Location map of observatories.

4月15日三重県中部地震時の、京都大学のいくつかの地殻変動連続観測点での歪記録を示す。いずれも  $1.0E-9$  台のコサイスミックステップを記録している。京都大学防災研究所では、南海地震に対応した研究の一環として紀伊半島、田辺市中辺路に簡易短スパン歪計(尾上謙介他・2005, 2006 = スパン約75cm)を設置した。この計器の設置後すぐに発生した地震であったが、明瞭な歪地震波を記録した。なお、4段目は逢坂山坑道内で観測している地下水位である。



第2図 地震前後の歪変化

Fig.2 Strain changes at 3 observatories before and after the earthquake at central Mie prefecture on April 25, 2007. (11:00 - 14:00, Apr. 25, 2007).